

日本海スルメイカ漁場調査

(抄 録)

川 村 俊 一 ・ 大 川 光 則 ・ 塩 垣 優

1996年5月～10月に試験船東奥丸（140トン）でスルメイカの漁場調査等を実施した。

沿岸域におけるスルメイカ

1996年本県日本海沿岸域に来遊したスルメイカは、例年（5月下旬）より若干遅れて6月2日に漁期が始まり好調に推移した。

日本海全体のスルメイカは漁獲量は1992年に23.7万トンと近年では最も高い漁獲量を記録したが以後漸減傾向にあり、1996年は約16万トンが漁獲されたと推定された。

一方、本県沿岸域における1996年5月～1997年1月までの漁獲量は9,833トンで、最近10年間で最高の漁獲となった。

また、C P U E（1日1隻当たり漁獲量）は1,032kgで、前年の560kgを大きく上回った。

沿岸域における1996年5月～1997年1月までの銘柄別漁獲割合は、1995年漁期に比べて20入れ（1箱5kg入れ）の割合が高く、15入れ以上の大型魚の割合が低く推移した。特に漁期前半は25入れ以下の中小型サイズの割合が高く、これは、例年漁獲の中心となる秋季～冬季に発生する資源の産卵時期が前年に比べてより遅い時期に中心がシフトしたことによるものと考えられた。

沖合域におけるスルメイカ

本県における日本海沖合からの水揚げ港である八戸・大畑港の中型凍結船による水揚げ量は、1993年以降太平洋アカイカに出漁する船が増えたため減少傾向にあったが、アカイカ資源の減少と魚価安から再び日本海への出漁船が増えたことから、24,000トンの水揚げとなり前年を5,000トン余り上回った。

発表誌名：平成8年度イカ釣り漁場開発調査資料22号（平成9年5月）

平成8年度外洋性イカ（スルメイカ・アカイカ）に関する生物測定・標識放流海洋観測結果基礎資料集（平成9年5月）青森県水産試験場